



鶴見 久美子 議員



子育て支援について

問 赤ちゃんにミルクをあげたり、おむつ替えをする授乳室の設置は進んでいるが、授乳室で搾乳もできることは理解が進んでいない。公共施設の授乳室で搾乳もできるよう整備が必要であるが、課題と所見を伺う。

答（財政部長） 出産された女性が、衛生的かつ落ち着いた環境で搾乳できる環境を整備することは大切である。市の公共施設

11カ所の授乳室を整備するには、設置環境等の物理的制約もあるため、関係部署と連携し、調整の上、すぐに進められる搾乳マークの表示等を推進する。

は 圃場整備事業について

問 圃場整備を推進することで用排水路の整備、労働力の軽減や採算性の向上、農地の有効利用が図られ、次世代の担い手確保ができる。上大野・上片田地域に隣接する小山市の圃場整備が完了した場合、古河市の農地への影響は大きい。特に、用排水路はひどい状態である。①現状についての所見と、今後の小山市との協議について。②地元地権者への説明会等の考えはあるのか伺う。

答（産業部長） ①小山市（仮称）南和泉地区では圃場整備の地元要望があり、令和7年度より地域計画を行うと聞いている。小山市と隣接する当該地域の別当谷地区は、中央を流れる用水路が上流の小山市とつながっており、湛水被害の影響が考えられる。今後、小山市側との情報共有に努め、十分協議していきたい。②要望があった際には、関係機関と連携し、進めたい。



古河市側の用排水路の現状



佐藤 稔 議員



自治会アプリの導入について

問 自治会活動における、役員の高齢化や担い手不足などの解決方法として活動のデジタル化が必要と考える。平時は回覧板の配信をメインとし、災害時には安否確認の機能を有した「自治会アプリ」の導入を提案するが、市の考えを伺う。

答（市民部長） さまざまな自治会アプリケーションがあり、有効活用できそうな機能が多数あ

る。導入を検討する場合、機能面や費用面に対するメリット、デメリットを調査し、自治会、行政区のデジタル化へのニーズを把握するためにアンケートを実施したい。自治会、行政区業務の負担軽減を図る上でアプリケーションの活用は有効なため、引き続き研究していく。



自治会アプリ「結ネットのデモ画面」

認知症施策の推進について

問 軽度認知症を加えた認知症

高齢者は1,000万人を超え、10年後の2035年には団塊世代は全て85歳以上となる。こうした時代に対応する予防策の一つとして、認知症の兆候を早期に発見する「デジタルツール」の導入を提案するが、市の考えを伺う。

答（福祉部長） 議員紹介の枚方市で導入されたデジタルツール「のうKNOW」は、自分の脳健康度をゲーム感覚でチェックでき、幅広い年代で認知症予防への関心を高める、使いやすいツールと捉えている。さまざまなデジタルツールが開発されているため、情報収集を行い、介護予防施策の効果が高められるよう調査していく。